

## 2003年10月期業績について

### 1. 業績報告

当期におけるわが国経済は、企業の業績改善が進むとともに、自動車業界等一部民間設備投資に回復の兆しが見られるなど、明るい材料が現れてきたものの、長引くデフレの影響や雇用情勢の悪化により個人消費の低迷が続くなど、依然として厳しい状況で推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、生産効率の向上を図るなど原価低減に積極的に取り組むとともに、高品質の製品作りに努め、市場競争力を強化してまいりました。

以上の結果、当連結会計年度の連結売上高は 12,174 百万円(前期比 27.9%増)となりました。また利益面では、経常利益 934 百万円(前期比 55.2%増)、当期純利益 216 百万円(前期比 2.5%増)となりました。

事業の種類別セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### 猟銃事業

主力の上下二連銃および新製品を投入したライフル銃の好調な販売とコスト低減の結果、売上高は 6,351 百万円(前期比 4.6%増)、営業利益 624 百万円(前期比 23.1%増)となりました。また、猟銃関連子会社4社が資本整理により100%子会社となり、より機動的に事業運営ができるようになりました。

#### 工作機械事業

平成 14 年 11 月 1 日をもって当社の完全子会社であるミロク機械(株)とその販売子会社である(株)ミロクマシントールが合併し、製販一体となり事業活動を推進してまいりました。その結果業績面では、自動車業界からの受注を中心に、好調に推移いたしました。なかでも工具等のツール部門は、国内シェアが約 50%を占めるまでに成長し、機械部門とともに工作機械事業の収益の柱となってまいりました。その結果、売上高は2,797 百万円(前期比 22.8%増)、営業利益 408 百万円(前期比 174.3%増)となりました。

#### 自動車関連事業

主力の純木製ハンドルの装着率やウッド調ハンドルの搭載車種がそれぞれ増加し、またシフトノブも大幅に伸びるなど安定した事業として成長し、売上高は 2,984 百万円、営業利益 7 百万円となりました。

#### その他事業

含浸木材を使用したミロモックル事業は、公共投資の縮小から厳しい環境が続いております。売上高は 45 百万円、営業利益 2 百万円となりました。

(注) 事業の種類別セグメントの業績のうち「自動車関連事業」の業績は、前連結会計年度は「その他事業」に含めて記載しておりましたが、当該セグメントの売上高の重要性が増したため、当連結会計年度より区分記載しております。そのため、自動車関連事業およびその他事業につきましては、前期比較は行っておりません。

### 2. 次期見通し

海外市場を主とする猟銃事業では、急激な円高により一部価格調整を行うこととなりましたが、原価低減活動を積極的に推進するとともに、主力製品である上下二連銃の新製品の販売、ライフル銃の新製品・新口径への取り組み等により、その影響を最小限にとどめるよう努めてまいります。

工作機械事業は引き続き好調に推移するものと予想しております。機械部門における米国の販売子会社では、日本メーカーの現地法人を中心に積極的な販売活動を展開し、厳しい市場環境下においても安定した受注を持続しており、また、ツール部門ならびに穴あけ加工部門は、プラズマテレビ等新市場での受注も加わり、大幅な伸びが見込まれております。

自動車関連事業も引き続き好調に推移するものと思われ、新工場の建設に着手しております。今後は、新製品の開発に積極的に取り組むとともに、コスト低減を推し進め収益向上に努めてまいります。